

精神保健福祉の原理

問題 19 ある日、精神科病院に勤務するA精神保健福祉士は、週明けに行われた担当病棟の看護部の申し送りで、3か月前に入院した患者Bさん(30代、男性)の祖父が亡くなったことを知った。Bさんは幼い時に両親が離婚し、その後は母親の実家で育てられ、祖父を大変慕っていた。先週末に母親から病棟スタッフへ電話があり「本来はBも葬儀に参列するべきであるが、祖父が亡くなったことへのショックや、慌ただしい葬儀への立会の負担が病状に影響を与えるかもしれない、家族としても対応を決めかねている」とのことであった。そこで両方で検討の末、ようやく病状が落ち着いてきたBさんには、今は知らせずに葬儀を執り行うことを決定したとのことであった。申し送りでその報告を聞いたA精神保健福祉士は、家族の気持ちは理解できるものの、一連の対応に何か釈然としないものを感じた。

次のうち、Bさんに対する周囲の一連の対応を象徴するものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 パターナリズム
- 2 マルトリートメント
- 3 インスティテューショナルリズム
- 4 施設コンフリクト
- 5 イネイブリング

問題 20 次のうち、「精神保健福祉法」の精神障害者の定義に示されているものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者
- 2 精神作用物質による急性中毒又はその依存症の者
- 3 発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病の者
- 4 職業生活を営むことが著しく困難な者
- 5 静止時振戦、筋固縮、寡動・無動、姿勢反射障害の症状がみられる者

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 21 精神保健福祉の歴史に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 バザーリア(Basaglia, F.)は、精神障害者を鎖から解放し人間的な処遇を提唱した。
- 2 ビアーズ(Beers, C.)は、自らの入院の体験を著し精神衛生運動に取り組んだ。
- 3 ピネル(Pinel, P.)は、精神科病院の廃止を訴え法律第180号の制定運動に関わった。
- 4 ジョーンズ(Jones, M.)は、日本における私宅監置の状況を調査し医療施設の整備を主張した。
- 5 サリービー(Saleebey, D.)は、マディソン市でACT(包括型地域生活支援プログラム)モデルの原型を創った。

問題 22 次のうち、障害者の権利に関する条約の批准に向けた国内法の整備にも関連し、新たに成立した法律として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 障害者基本法
- 2 障害者自立支援法
- 3 「障害者差別解消法」
- 4 「障害者虐待防止法」
- 5 「障害者雇用促進法」

(注) 1 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

2 「障害者虐待防止法」とは、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

3 「障害者雇用促進法」とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。

問題 23 次のうち、リカバリーを論じた際に、「多くの精神障害者は地域で暮らし、働き、愛し、重要な貢献をすることを求めている」旨を主張した人物として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ゴッフマン(Goffman, E.)
- 2 リバーマン(Liberman, R.)
- 3 デイーガン(Deegan, P.)
- 4 ウイング(Wing, J.)
- 5 マイヤー(Meyer, A.)

問題 24 次の記述のうち、精神保健福祉士の援助における循環的關係を表すものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 認知能力が低下しているクライアントに代わって、金銭管理を行った。
- 2 退院後の生活について、クライアントの希望を尊重し折り合いをつけながら支援計画を立てた。
- 3 提供できる医療や福祉サービスの内容を説明し、クライアントからサービス利用の同意を得た。
- 4 職場環境を改善するために、クライアントと共に精神障害に関する従業員の理解を促した。
- 5 クライアントの体験の語り続ける双方向のやり取りによって、共に相手の見方を通して、自分の見方を見直した。

(精神保健福祉の原理・事例問題)

次の事例を読んで、問題 25 から問題 27 までについて答えなさい。

〔事 例〕

相談支援事業所に勤務する A 精神保健福祉士は、「障害者総合支援法」に基づき市に設置されている協議会の委員を務めている。A 精神保健福祉士は、協議会が主催する精神保健福祉ボランティア講座の講師を担った。精神障害に関する講義の後に行ったグループワークで、ある参加者から、知人が「精神障害者は危険なので病院に閉じ込めておくべきだ」と強く語っていたこと、その考えは誤りであると否定したが、うまく納得してもらえなかったエピソードが紹介された。(問題 25)

A 精神保健福祉士は、このエピソードの背景にある課題の解決に向けた取組が必要と考え、協議会で問題提起した。そこで、A 精神保健福祉士は、この課題解決の取組を検討する議論に精神障害の当事者も加わり意見を反映させることが重要であると考え、当事者を委員に加えることを提案し、了承された。(問題 26)

次の協議会で、提起した課題が議論された。新たに参加した当事者委員から「病気になる前はストレスフルな状況が続いても無理をしていたが、自分が精神疾患になるとは思っていなかった」と語られた。また、病気になって周囲から差別を受けたり、精神疾患を理由に恋人との結婚を周囲から反対されたりしたこと、そのうち、障害者の仲間以外との関わりがほとんど無くなったことなど、生活での苦勞の経験が語られた。一方で、A 精神保健福祉士がそれらの経験の中で得たことを質問すると、近所に病気や苦勞を理解してくれる人がいて救われたことや、新たな生き方に価値を見いだせるようになったことが当事者委員から語られた。

A 精神保健福祉士は、当事者委員が語った苦勞の背景にある課題の改善に向けて、精神障害者の人生の価値を共有できるような市民向けの講座を行うことを提案した。協議会では他にも活発な意見が出され、講座の計画が作成された。(問題 27)

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 25 次のうち、このエピソードの背景にあるものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 倫理的ジレンマ
- 2 マージナルマン
- 3 二重拘束性
- 4 スティグマ
- 5 優生思想

問題 26 次のうち、A精神保健福祉士の提案の根拠となるものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Nothing about us without us(私たち抜きに私たちのことを決めるな)
- 2 「この子らを世の光に」
- 3 当事者研究
- 4 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
- 5 「ごく当たり前の生活」

問題 27 次のうち、この場面で協議会が計画を作成する際に、根拠にしたものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ヘルパー・セラピー原則
- 2 こころのバリアフリー宣言
- 3 労働者の心の健康の保持増進のための指針
- 4 クラーク勧告
- 5 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン